

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28082 震災から5年：気仙沼の復興を支える森里川海のつながり



開催日：平成28年8月21日(日)  
実施機関：首都大学東京  
(実施場所) (NPO 法人森は海の恋人「舞根森里海  
研究所」)  
実施代表者：横山勝英  
(所属・職名) (都市環境科学研究科 准教授)  
受講生：中学生2名  
関連URL：

【実施内容】

本事業は、小学校や中学校の教科書にも取り上げられている「森は海の恋人」発祥の地において、森里川海のつながりの重要性を学ぶとともに、東日本大震災での津波被害に対する自然の回復能力と震災復興の在り方について考究することを目的として実施した。

本事業は今年度初めての試みであることから、岩手県・宮城県の全公立中学校にポスターや申込用紙を配布したり、地元の新聞に広告を掲載したりするなど、周知に力を入れた。広報活動を7月上旬から中旬にかけて集中的に行ったが、結果的に中学校の夏季休暇直前になってしまったこと、本事業の開催日が岩手県において夏季休業明けになっていたことなどがあり、応募者数が4名にとどまった。その後、学校行事と重なったこと、台風の進路が心配であることで2名のキャンセルがあり、当日の受講者数は2名であった。

当日は、台風の心配をよそに絶好の晴天に恵まれ、スケジュール通りの内容を実施することができた。集合場所から舞根森里海研究所までの移動中は、畠山信氏の津波被害と復興の現状についての解説が行われた。研究所に到着して昼食をとった後、福島特任助教による森里川海のつながりの講義を実施した。その後、野外へ移動し、森林溪流や塩性湿地、海へと移動しながら、水質調査・生物観察を行った。実験室では、パックテストを用いた簡易水質検査や電子顕微鏡を用いたプランクトン観察、図鑑やルーペを用いた幼魚観察を実施したほか、水槽を用いてカキによる水質浄化能力を見てもらうなど、実施分担者や協力者が工夫を凝らして解説・展示を行った。



現場や実験室では、事前に作成したイラスト付きの資料を配布し、それをもとに解説を行ったり、ホワイトボードを使ったりして丁寧な説明を心がけた。また、パックテストやカキ水槽など、一目で結果が分かるような簡易な実験を行い、結果をもとに専門的な解説を加えて理解を深めてもらうように工夫した。

受講者数が少なかったことで、一人一人に時間をかけて丁寧に解説することができ、また適度に大学や研究生生活に関する雑談も混ぜて進めることができた。実施協力者である首都大の学生たちとも、現場作業を協力しながら楽しく会話している様子が見受けられ、双方にとって良い経験になったものと実感した。最初は緊張の面持ちだった受講生たちも、野外実習や室内実験を通して笑顔が見られ、最後は非常に充実した様子であった。

安全対策については、事前に実施者間で野外活動において想定されるリスクやその対策を入念に打ち合わせた。受講者にも事前に野外での服装や常備薬、保険等に関する詳細な説明資料を事前に郵送し、万全を期した。実施直前と直後に2つの台風が付近を通過するという

最悪の天候状態であり、実施中止の連絡体制も急きょ作成する事態となった。実施中は天候に恵まれたが、万が一の事態に対する備えもおおむねできていたと思われる。

本事業の開催を多くの中学校に周知したことから、今回は参加できないが次回機会があればぜひ参加したい、開催日をもう少し早めてもらいたい、などといった内容のメールが多数寄せられ、関心の高さがうかがわれた。また、本事業の取材の申し入れも数件あったが、台風取材に回らなくてはならないという事情で当日の取材はすべて見送られたことも残念であった。

事業についての周知と実施内容は成功したものと考え、今回の内容をひな形として次回以降の開催へとつなげていきたい。その際、受講人数が増えた場合の内容、荒天が予想された場合の対応など、事前に十分検討する必要性を実感した。

なお、本プログラムを実施するにあたり、首都大学東京産学公連携センターが日本学術振興会との連絡・調整を、および首都大学東京管理部理系管理課会計係が委託費の管理を行った。



#### 【実施分担者】

福島 慶太郎 都市環境科学研究科 特任助教

【実施協力者】     5     名

#### 【事務担当者】

田沼 あさ美 産学公連携センター 調整係